

# ししとう

ナス科：熱帯アメリカ

## 栽培暦

月 旬	2			3			4			5			6			7			8			9			10			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
主 な 作 業																												
	育苗準備	○			△			●			—			←			←			←			←			←		
		播種			鉢移植			定植準備			マルチ			定植			追肥			追肥			追肥			追肥		
		温床			温床												←			←			←			←		

### ■栽培のポイント

- 乾燥に弱いので、なるべくよく肥えた保水性のある畑を選ぶ。また過湿にも弱いので転換畑では高うねにするなど排水には十分留意する。  
なお、連作障害が出やすいので、連作（ナス科植物）は避ける。
- 長期間樹勢を維持し収穫するため、良質な堆肥を十分投入し通気性のある土づくりを行う。
- 無理な早植えはせず、地温（15℃以上）を確保してから植える。高温乾燥期には定期的なかん水、追肥を行い、敷きわらをする。

■品種・種子量 東京千成2号、つばきグリーン。a 当り 6 ml。

### ■育苗

**播種** 種子はぬるま湯に一昼夜浸してから 6 cm 間隔に条播きする。覆土は種子が隠れる程度にうすく行い、十分にかん水してから新聞紙をのせ乾燥を防ぐ。発芽したら、新聞紙を除去し、発芽揃い時に混み合っている部分は 2~3 cm 間隔に間引く。

**床温** 発芽までの床温は日中 25~30℃、夜間 18~20℃の変温管理で発芽を揃える。発芽後鉢上げまでは日中 25~28℃、夜間は 20℃、本葉 4 枚頃の発芽分化始期からは日中 25~26℃、夜間 15~16℃する。なお、定植 7 日位前からは床温を下げ、日中は十分に換気を行い、外気に馴らす。

**鉢上げ** 本葉 3~4 枚時（発芽後 35~40 日）に 12 cm ポットに移植する。

**鉢ずらし** 葉がふれ合うようになったら光が当たるよう適宜鉢ずらしを行う。

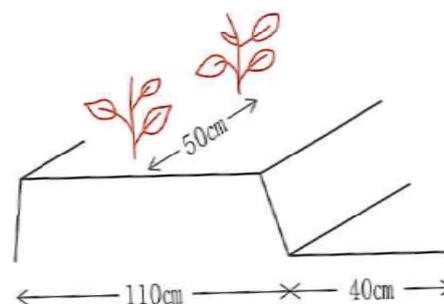
**育苗日数** 75 日前後（1 番花の開花直前の苗が定植適期）。

施肥例

(a 当り)

うねつくり

肥料名	基肥	追肥	備考
完熟堆肥	200kg	—kg	成分量
苦土石灰	12	—	窒素 2.8kg
CDU-S682 (16-8-12)	10	—	リン酸 2.3
苦土重焼燐	2	—	加里 2.3
燐硝安加里 S604	—	8	追肥は 4~5 回に分けて行う。



■定植準備

**施肥** 特に堆肥、燐酸、苦土石灰等の土壌改良資材は定植 1 か月前までに全面散布し深耕する。適正pHは 6.0~6.5。

**うねつくり** うね幅 150 cm (ベッド幅 90 cm)、株間 45 cm の 1 条植え。

**マルチング** 早い時期の定植では定植の 7 日位前までにポリマルチ (幅 135 cm、厚さ 0.02 mm、透明) を張り、地温を上げておく。6 月以降の定植で地温が十分確保される時期では除草効果を狙うため黒マルチが良い。

■定植 定植は地温 15℃以上、晩霜のおそれがなくなる 5 月下旬頃より可能である。定植は温暖な日を選び、植え穴と株元に十分かん水し植え付ける。倒伏防止のため定植後仮支柱を立て、のちに本支柱を立て誘引する。

■定植後の管理

**誘引** 倒伏しやすいので、本支柱の他にうねの両側に長さ 1m 位の支柱を立て、高さ 50~60 cm の位置に針金やひも等を張り、枝の垂れ下がりを防ぐ。

**整枝** 種枝と 1 番果の直下の側枝 2~3 本を伸ばし、その下の側枝は除去する。その後は放任とし、特に混み合う枝があれば取り除くようにする。

**敷きわら** 梅雨上げ前に乾燥防止のため、うね間とマルチに敷きわらを行う。

**かん水と追肥** 7~8 月の乾燥期は樹勢が弱くなり、落花が多くなるので、かん水と追肥を定期的に行う。

■病虫害防除 アブラムシ伝搬性ウイルス (キュウリモザイクウイルス)、タバコガ、疫病等の発生が多いので注意する。

■収穫・収量 特に、高温乾燥期に大きくならせ過ぎると、辛みが増したり樹勢が弱くなるので、果実の長さ 6 cm を目安に順次収穫する。10 月中旬頃まで収穫可能。収量は a 当り 400 kg 程度。